

生シイタケ旋風! 全国からそのまま宮崎へ

全国サンマッシュ 生産協議会

会場：宮崎県フェニックス・シーガイア・リゾート



森坪清則会長

第23回全国大会in宮崎

シエア50%突破、記念大会

全国一の生シイタケ生産量を誇る全国サンマッシュ生産協議会(会長・森坪清則)の第23回全国大会が「シエア50%突破記念大会」として1月27、28の両日、宮崎県宮崎市の「宮崎フェニックス・シーガイア・リゾート」で開催された。会場には北海道から鹿児島までの会員生産者や関係者、東国原宮崎県知事をはじめ関係各県の行政担当者および研究者、青果市場19社など約600人が出席、記念大会ならでは大盛況な大会となった。初日は総会と栽培技術研修会および品評会が行われ、2日目は小林市の村田農園の視察研修が行われた。

0人が詰め掛けた会場の熱い雰囲気はまさに、サンマッシュの勢い、そのまま宮崎へ、を物語っていた。まず森坪会長があいさつに立ち、昨年6月と7月の東北地方の地震発生による被害者の見舞いの言葉や近年の消費動向や輸入減少など情勢の変化を報告した後、同生産協議会の三大方針(①消費者に支持される安全安心な商品づくり②サンマッシュランドの確立③後継者の育成(女性部・青年部の設置とその活動の推進))

若者多く会場に熱気

を示し「消費者は毎日、家族の健康・安全に気を配って購入していることを忘れずに商品づくりをする。サンマッシュのシエアが50%となった今、サンマッシュの価値を世の中に示し消費者の支持を受けるようにしなければならない。後継者の育成は欠かせない。そのために女性部と青年部の早期の設置をすめたい。今後の大会などで積極的な役割を担って欲しい」と囁み砕くように説明。最後に協議会は今後も会員一丸と

さつ「まず全国の会員の熱意と意欲でこのような盛大な大会となったことを関係者としてお礼を申し上げたい。九州での全国大会は6年前の長崎県島原市大会以来でその間の会員の増加や組織の充実が目を見張るものがあった。今後もサンマッシュ会員としての誇りと自信を持って邁進してもらいたい。当社としても会員の期待に添える種類の開発をすすめる」と生産者への激励も含めて来賓あいさつに代えた。

栽培技術研修会

10分間の休憩を挟んで行われた研修会は4点の研修課題で進められた。最初は榊北研本部長・鮎澤澄夫氏が「市場情勢の状況と販売の方向」として消費者・大手スーパー・外食産業の動向や戦略を解説。その上でサンマッシュ生産販売の方向を示した。次に同主任・寺内健氏が「各種栽培方式の特徴と考え方」として空調栽培と自然栽培の分類とそれぞれ栽培ポイントを解説。その中で空調栽培の短期栽培と長期栽培の違いなどを発生個数や大きさで示した。3

た。松谷氏は「改良型上面シートの有効性」の試験結果を示し、また、山内氏は「ナパチツ事前処理-蒸気処理」の方法と有効性の試験結果を発表した。最後に緊急課題「省エネ栽培を考える」として、同係長・藤田寿氏が省エネを意識した発芽環境管理や熱水噴霧システム(マッシュクリーン)を採用した室温低下抑制と理想的な湿度管理とエコパーナーを利用した殺菌システムを紹介した。



林野庁特用林産対策室長 森川誠道氏



宮崎県議会議長 坂口博美氏



榊北研社長 内堀俊幸氏

村田農園は現在13種類の菌床を製造、出荷は「サンマッシュ和」の規格を主体に定数及び無選別(100g)パックという独自の包装形態も行っている。

技術研修会 村田農場視察を 研修

28日は視察研修が行われ、小林市の村田農園を約280人が訪ね空調を利用した移動台車による上面栽培を視察した。村田農園は現在13種類のきのこを栽培している。菌床椎茸栽培は年間20万菌床を製造、出荷は「サンマッシュ和」の規格を主体に定数及び無選別(100g)パックという独自の包装形態も行っている。

東国原知事が 歓迎のあいさつ



あいさつに壇上に立った知事は冒頭、未発表の品評会入賞者の出身県を紹介、また壇上に飾られている椎茸について「机には大体どこでも、立派の花が飾られています。今日は椎茸の大会だけに立派な椎茸ですね」などと巧みな話し方で主催者の驚きをかうユニークな切り出しの後、次のように来賓あいさつした。「私は椎茸が大好きです。煮しめなど



全国から600人が参集 増産を確認し合う



真剣な表情で視察する